

このコーナーは、小笠原諸島と琉球諸島に生育している絶滅危惧植物の展示・栽培を専門としています。両諸島はどちらも北緯 27 度あたりに位置しており、日本に 2 つしかない亜熱帯地方です。この 2 つの諸島の形成過程はたいへん異なるため、それぞれに特有の植物相が見られます。

小笠原諸島は海底が隆起してできた海洋島であり、一度も本土とつながったことがありません。現在島で見られる植物はすべて、かつて偶然島にたどり着いて適応した植物です。その後、隔離された環境下で進化を遂げ、数多くの固有種が生まれました。

それとは対照的に、琉球諸島はかつてアジア本土につながっており、その後、気候変動による海面の上昇によって島として取り残された大陸島です。島に取り残された植物は独自の進化の道を歩み、ついには固有種となりました。

どちらの諸島も、海に囲まれ他から隔てられた小さな島々から構成されており、その隔離された環境の中で独自の生態系が形成されました。しかし、各品種の生息地の大きさも個体数も限られているため、島の植物や生態系は人間の活動が引き起こす乱れの影響をたいへん受けやすくなっており、その結果として特有の植物の多くが絶滅したか現在絶滅の危機に瀕しています。